

平成 30 年度 第 1 回錦江町地方創生推進委員会会議録

日 時	平成 30 年 9 月 25 日 (火) 午後 13 時 30 分
場 所	錦江町役場 2 階会議室
出席者	<p>委員</p> <p>染川委員長 (錦江町商工会長)、鳥淵委員 (鹿児島きもつき農業協同組合理事)、北方委員 (おおすみ岬漁業協同組合大根占支所長)、柿迫委員 (大隅森林組合南大隅支所長)、黒瀬委員 (肝属郡医師会立病院事務長)、田邊委員 (大隅地域振興局総務企画課長)、松本委員 (鹿児島銀行大根占支店長)、八ヶ代委員 (鹿児島相互信用金庫大根占支店長)、瀬戸委員 (鹿屋公共職業安定所所長)、表木委員 (麓地区公民館長)、城下委員 (元子ども会育成連絡協議会会長)、濱田委員 (公募)、中濱委員 (公募)</p> <p>* 欠席者 桑原委員 (建設業協会大根占支部副支部長)、與崎委員 (南大隅高校校長)、大楽委員 (JTB プランニングネットワーク地域交流推進センター鹿児島分室スーパーバイザー)、福岡委員 (NPO きんこう・まちむらネットワーク理事長)、寺田委員 (公募)</p> <p>事務局</p> <p>町長、副町長、総務課長、政策企画課長、未来づくり課長、観光交流課長、政策企画課主幹</p>
配布資料	<p>平成 29 年度の効果検証について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 錦江町総合戦略の効果検証 (政策企画課) ・ 未来づくりプロジェクト実績報告 (未来づくり課) ・ 地方創生推進交付金 (大隅広域観光推進事業) の効果検証 (観光交流課) <p>平成 30 年度事業</p> <p>別紙 1 特産品ブランディング事業</p> <p>別紙 2 小さな拠点づくり事業 (宿利原学習センター等改修事業)</p> <p>別紙 3 空き家対策事業</p> <p>別紙 4 サテライトオフィス事業</p>
事務局 (政策企画課長)	<p>それでは、平成 30 年度第 1 回錦江町地方創生推進委員会を開催いたします。開会にあたりまして木場町長がごあいさついたします。</p>
町長	<p>みなさまこんにちは。お忙しい中、第 1 回地方創生推進委員会にご出席いただきありがとうございます。</p> <p>本町の地方創生の取組みにつきましては、本日の資料にも書いてございますが、未来プロジェクトという特別なチームを作りまして、町の基</p>

	<p>本的な考え方「土台づくり・しごとづくり・なかまづくり・ひとづくり・新しい絆づくり」の5つの事業を推進するために、いろんなプロジェクトを進めております。本日は平成29年度のKPI等についての報告が主な内容となっておりますが、進捗状況がいい事業、進まない事業といろいろありますが、30年度、31年度に向けてPDCAのサイクルに反映できるように委員の皆様の見解を聞きながら、場合によっては部分的に方向修正をするなり、あるいは加速度的に事業を展開するなりの必要があるかと考えております。忌憚のない委員の皆様のご意見を出していただければと思います。本日はよろしくお願ひいたします。</p>
事務局 (政策企画課長)	<p>つづきまして、推進委員会の染川委員長にごあいさつをお願ひいたします。</p>
染川委員長	<p>みなさん、こんにちは。</p> <p>3月にこの推進委員会の委員長に推薦いただきました染川です。本日はご多忙の中ご出席いただきありがとうございます。人口減少に歯止めをかけるべく、いろんな錦江町のまちづくりということで、多種多様のいろんな業種の皆さん方から多方面にわたっていろんなご意見をいただきながら、将来の錦江町の在り方を今まで議論をしていただいております。その中で未来づくり課が新設され、いろんな事業を推進していくわけですが、錦江町の将来に向けて議論していただいたことを町長に答申していきたいと思っておりますので、委員の皆様のご忌憚のないご意見をいただきそれぞれの事業へ反映できればと思いますのでよろしくお願ひいたします。</p>
事務局 (政策企画課長)	<p>この推進委員会は18名の委員で構成されておりますが、12名のご出席、4名の委任をいただいておりますので、本委員会が成立することを報告させていただきます。本年度の人事異動により2名の委員に変更がありましたのでご紹介いたします。大隅地域振興局総務企画課長の田邊委員と鹿児島銀行大根占支店長の松本委員です。これからよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは推進委員会設置要綱によりまして、会議の議長は委員長となっておりますので委員長のほうで議事進行をお願ひいたします。</p>
染川委員長	<p>それでは協議に入ります。時間は午後3時までを予定として進行したいと思いますので事務局は簡潔で分かりやすい説明をお願ひいたします。</p> <p>平成29年度の効果検証について協議させていただきますが、皆様からの質問は3つの説明が終了してから伺います。</p> <p>はじめに錦江町総合戦略の効果検証を政策企画課から説明をお願いします。</p>
政策企画課 (担当)	<p>錦江町総合戦略の効果検証について説明。</p>

未来づくり課長	未来づくりプロジェクト実績報告について説明
観光交流課長	地方創生推進交付金（大隅広域観光推進事業）の効果検証について説明。
染川委員長	説明ありがとうございました。各課から説明をいただきましたが皆様方からのご質問等があればお願いします。
委員	<p>たくさんいろんな事業に取り組まれており非常にご苦労されているなあと感心したところです。5つの取組みで「新しい絆づくり」の説明をいただきましたが、ここの全体の取組みの進み具合が気になりました。2年間の実績でも0件が多い。また未来づくりプロジェクト実績報告の中でもK P I 達成率が4つのうち3つが0%である。この「新しい絆づくり」の進捗が進んでいないが、平成30年度はこの事業を進めるためにどのようなことに取り組んでいますか？</p> <p>それからファンクラブ数の東京と鹿児島市のそれぞれの人数を教えてください。</p>
染川委員長	未来づくり課長。
未来づくり課長	<p>ご質問の前段をお答えいたします。ご指摘のとおり事業成果が上がっておりません。29年の3月に協議会が、そして29年の4月に事務局が発足したところでございます。「新しい絆づくり」は地域の未来に向けた新しい地域のかたちとは？というようところで、昨年度につきましては小規模多機能集落の研究とか主に情報収集のところを行いました。今年度は地域の皆様に還元するようにご紹介であったり、地域の全員アンケート調査で地域の構成員全員で地域の未来を考えてみましょうというような取組みをモデル的に1自治会、公民館単位で2つほど実施したいと考えております。その成果によって来年度事業の運び方を考えていきたいと考えております。事務局も当然でありますM I R A I 協議会の理事様あわせて協議会全体できちんと考えていきたいと思っております。</p>
政策企画課 （担当主幹）	<p>ファンクラブ数についてお答えいたします。407名の会員数の内訳ですが、東京の八重洲カンファレンスセンターにて首都圏在住の方々を対象に開催いたしました、その時の参加者が20名、また今年3月に鹿児島市内で開催した「錦江町ファン感謝祭」に参加していただいた387名の合計407名を会員数として計上しております。</p>
委員	ファンクラブに登録すると何か特典とか情報発信とかありますか？
政策企画課 （担当主幹）	観光交流課がうまいことやっております、SNSを使っての情報発信や特産品の紹介や販売等の情報提供をしております。
観光交流課長	<p>ファンクラブについては、設立の目的として錦江町にゆかりのある鹿児島純心女子短期大学の学生やOBそしてその父兄の方々やソラシドエア、ローソン等の企業の方々を組織化したいと思い設立しました。今はLINEアプリを使って定期的に情報発信しており、錦江町旬な情報（ロ</p>

	一ソンスイーツの販売やクワガタガールズのミニコンサート情報) を発信しております。
染川委員長	他にございませんか？
委員	ふるさと納税で一番多かった納税額はいくらでしたか？またその方に対してどのくらいの返礼品を送りましたか？またふるさと納税の活用をどう進めていかれるのか、どのようなことに重点的にしていくのかお聞きしたい。
染川委員長	未来づくり課長。
未来づくり課長	今までのふるさと納税額の最高額はお一人様から 100 万円いただきました。返礼品はあらかじめパンフレットを作成しておりその中から選んでいただくこととしておりますが、その返礼品の最高額は 10 万円であり、10 万円ふるさと納税していただいた方には 3 万円の返礼品を準備しております。100 万円ふるさと納税していただいた方は返礼品は要らないと言われてましたが、心ばかりの返礼品をお贈りしたところです。 ふるさと納税の使い道ですが、住民の方々から提案していただき 4 つの使う対象というのがありまして、1、子どもなど将来の社会の担い手の育成に関する事業、2、地域経済の活性化に関する事業、3、高齢者の社会貢献に関する事業、4、移住・交流に関する事業を条例化しております。これらを基にどのような事業を行うかということで、未来想像創造コンテストにより事業化しております。例えば 4 月に「町内に小児科がないので小児科の先生に相談できるような仕組みづくりは出来ないか？」とこのコンテストにより提案がありました。これに対して「小児科オンラインシステム」をという、首都圏の小児科の先生たちに無料でパソコンやスマホから無料で相談できる仕組みづくりを導入しました。
染川委員長	よろしいでしょうか？他にありませんか？
委員	わかりました。ふるさと納税の町内返礼品については、商店街もあるし農業をされる方もいらっしゃいます。その中で商品を選ぶのは大変だと思いますが、例えば 3 万円分の寄附に対しての商品にはどのようなものがありますか？
未来づくり課長	魔王と中心とした焼酎セットとかがあります。
委員	特定の魔王だけというような考えなんですか？商店街の活性化につながるわけですから、他の何かも見出してやはりそのあたりも考えてほしいと思います。

未来づくり課長	10万円に対する3万円の返礼品は私どもが選定したわけではなく、町内の事業者様にお願いして作っていただいた商品であります。表木委員もおっしゃるように、町内の事業者様が「こんなのが売れるのか？」と試しに実験してみる非常にいい機会だと思いますので、9月18日に返礼品を出店している事業者様に対して新しい組み合わせの商品とか新商品の開発とか、また新規返礼品事業者様の参加等についても私どもからもお願いしたところです。これからもいろんなところにもアンテナを張りまして新規商品開発とかのお願いなどをしていきたいと考えております。
委員	是非努力してってください。
染川委員長	努力してくださいとのことです。他にございませんか？
委員	この事業計画を拝見しましたが、お願いがあります。ぜひ地方創生の中でわくわくするような事業計画、それと今これだけ人口が減っております。なので若者が集まるような事業案件とかを考えてもらってもいいのかなと思います。これだけ大隅半島は観光ですごく注目されておりますので、このフォローの風には是非乗ってもらいたいなと思っています。うちのほうからでも色々と提案していきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。
染川委員長	政策企画課長。
政策企画課長	今、委員からもご提案ございましたけれども、私どもがいつも目標としている中で、将来への投資という部分をかなり重視していることと、土台をしっかり作りたいということが、ここ2～3年のメインとなっております。また今後も個別の事業計画が立てられるようであれば、それに取り組んでいきたいと考えております。特に若者の関係ですが、これは大きな課題でありまして先ほどのKPIでも説明しましたが、移住者が22件というこの案件を分析してみると、1件だけがIターンで、21件がUターンでした。Uターンの方々の転入先を見ても、やはり鹿屋市が中心となっております。小さな地域でパイの取り合いというのはいかがかとは思いますが、確かに若い方々がこの町に対して魅力を産業であったり、生活のしやすさとかで帰ってきていただける、またここに住んでみたいというようなプロジェクトについても今後の課題として真摯にとらえていきたいと考えております。
染川委員長	ありがとうございました。他にございませんか？
委員	地方創生推進交付金のことについて伺います。大隅みらい会議の委員に私も選ばれておりますが、錦江町としてこれをどのように進めていく予定であるかを教えていただきたい。
染川委員長	観光交流課長
観光交流課長	今の質問でございますが、4市5町で観光推進を図っていくということで大隅版DMOを設立していきます。来年度の事業の目的は今のと

	<p>ころある程度のマーケティングを中心に、来たお客様にどのようなニーズがあるのかを調査するのが主となっておりますが、では錦江町としてはどうなのかという、法人の中の一つとしてやるのかそれとも単独でやるのかで分かれていますが、錦江町としては観光というより交流のほうに以前から重きを置いております。鹿児島純心女子短期大学との包括連携協定、紫原町内会との交流会。何故かという錦江町には宿泊する場所が少ないので、戦略としては車で2時間のところをターゲットに絞ってPR活動を行っております。主に鹿児島市内でPR活動していますが、その中でも紫原町内会をターゲットにしたのは、昔ながらの回覧板組織が残っている町内会であり、情報伝達がスムーズにしていることが選択の理由です。またその地域の近くに鹿児島純心女子短期大学がありまして、ここの包括連携協定にてローソンのスイーツ開発とかをしております。今後雄川の滝とか佐多岬に多くの観光客が来ておりますが、この観光客をどのようにして大隅半島に回していくかがこのDMOの目的であります。では錦江町ではどのように取り組むかといいますと、素通りさせるわけにはいきませんので神川地区で足を止めることに取り組んでおります。そしてその観光客を花瀬地区、そして内之浦地区へと周遊させることをテーマにしております。神川海岸に影絵を設置しておりますが、あの影絵は総額5万円しかかかっておりません。5万円で観光客の足を止めるための印象付けということで、「インスタ映え」を狙っております。そして雄川の滝上流展望所に来られる観光客の方は「大河ドラマ」を観た方たちなので、歴史好きの方たちではないかと思っておりますので、1,853年にペリーが日本に来た時期に島津斉彬氏が花瀬を訪れている事実がありますので、これもPRしながら誘客したいと思っております。</p>
委員	<p>雄川の滝と佐多岬に集まっておりますので、できれば錦江町としての案内板を充実してほしいなど直近の自分の願いです。雄川の滝や佐多岬に来た人は錦江町に寄らずに帰っていると感じている。せっかく影絵とかしているのであれば、こちらのほうへの案内をするとかが必要じゃないかなと自分が感じたものですから、錦江町の取組みを聞いたところでした。</p>
染川委員長	<p>案内板については色々なところからも意見が出ております。当局は誰か説明をしてもらえますか？ 観光交流課長。</p>
観光交流課長	<p>案内板については随時設置していく予定であります。特に雄川の滝上流展望所については歴史的背景と関連して島津斉彬氏、旗山神社の島津義弘公を繋げて案内板で誘導していく予定です。</p>
染川委員長	<p>観光交流課長にはテレビやラジオでタレント活動と併用して錦江町のPR活動に活躍してほしいと思います。他にございませんか？</p>

委員	協議会事業について、K P I の達成率いいもの悪いものありますが、少しずつではありますがデータが見えてきているものもあると思います。協議会の職員の任期は確か3年だったのではと思います。今現在半分経ったのですが、あと1年半経った後は町として職員の待遇をどう考えているのか？
染川委員長	政策企画課長。
政策企画課長	錦江町まち・ひと・M I R A I 創生協議会の職員は当初3年間の任期ということで半分過ぎようとしております。募集の時の条件としまして、延長をすることはあり得るということで、「任期3年で更新あり」で条件提示しております。これについては本事業の進捗状況を加味しながら今後を進めていくことになろうかと思っております。現段階で1年半後については、おそらく再来年あたりに国の総合戦略等の改訂があり、それを踏まえて見直しが必要となってくる。これまで本事業は地方創生と名前は変わりましたが、従前からの地域活性化という部分の延長線上にあると位置づけられるものであるので、当分うちの厳しい状況をみると継続していかざるを得ないのかなという風に認識しているところです。
染川委員長	ありがとうございます。他にございませんか？ それでは無いようですので、平成29年度の総合戦略への取組みに対して色々と意見を出していただいたので、行政当局はこの推進委員会の意見を参考にさせていただきながら今後の総合戦略をご検討いただくようよろしくお願いいたします。 次にその他に入ります。委員の皆様何かありませんか？何もないようでありますので協議は以上となります。スムーズな進行が出来ましたことを皆様に感謝いたします。ありがとうございました。 それでは事務局にお返しします。
政策企画課長	染川委員長ありがとうございました。 それでは報告という形でお手元の資料の10ページ以降をご覧ください。現在地方創生、地域振興という形で進めております事業の状況報告のみをさせていただきます。 特産品ブランディング事業について説明。 小さな拠点づくり事業（宿利原学習センター等改修事業）を説明。 空き家対策事業について説明。 サテライトオフィス事業について説明。 委員の皆様からご質問とかありますか？
委員	小さな拠点づくり事業の「グリーンスローモビリティの導入実験」ですが、1台どのくらいするのですか？
政策企画課長	非常に高く、1台が最低でも1,700万円です。
委員	そんなにするんですね。いや、これを聞いたのはこれを導入する際に企業版ふるさと納税とかで購入すればいいのかなと思ったものですか

	ら。
政策企画課長	ありがとうございます。その件については情報収集の段階でございますが、将来的には公共交通機関が脆弱のところを活用できる交通政策として位置付けているところであります。また調査研究を続けていきたいと思っております。それでよろしいでしょうか？
委員	先ほどの意見と少しかぶるんですけど、協議会と役場と一緒に未来に対する取組みを色々とされていると思うんですけど、3年後もし協議会が無くなった場合、協議会がやってきた活動というのは役場の方が引き継いでいくのかなと思うのですが、協議会の職員の方がされている調査だったりそのようなものは役場の方がされていることとかぶってくる部分なのか、協力する部分というのが非常にあるのかなって思うのですが、その部分の関係性というのは十分図られていたりするのでしょうか？
町長	協議会の職員は全国公募をしてきていただいた方々です。原則3年、引き続き延長もありますし、せっかく縁あってわざわざ錦江町に来ていただいていますので、町としては何らかの形で雇用できるように継続をすすめたいと思っております。そのためには職員として採用するためにいろいろな条件がありますので、場合によっては未来プロジェクトというチーム名で事業を進めていますが、可能であれば今後法人化するなり、法人化した後で今やっている事業の一部を錦江町が委託するとかいろいろな方法があると思いますが、中浜委員がおっしゃる通り未来プロジェクトがやっている業務は基本的には錦江町がやっている業務の範囲内です。他の自治体ではこの地方創生事業を庁舎内、役場内で行っているところが大部分であります。うちの町が別に民間の人たちを集めて、別組織でやっていることはどっちかという異例な形で事業を進めている。この部分が他の自治体と違うところである。基本的な考え方としては、3年、5年経ったからこの事業をやめるということではなく、未来永劫、事業の推進力が増すか劣るかは別として、ずっとやっていかなければならない役場としての業務の一部だと思っている。ただやり方は「今後どうするか？」といういくつかの選択肢があると思っておりますので、任期が切れたから「はい、終わり」とはなりません。そこら辺はここ1～2年の間に方向性を明確にしていきたいと考えています。
委員	任期以外の部分で、色々何かを進めていくにあたって役場と協力しないといけない部分だったりとか、問題点とか似ている部分がたくさんあったりすると思うのですが、そのあたりのコミュニケーションはとりやすい環境にありますか？
未来づくり課長	ご質問ありがとうございます。町長が申しあげたとおりであります。主に政策企画課が町の重要政策の決定機関を担う組織であります。未来づくり課というのは地方創生総合戦略の実施と、ふるさと納税がメインということで、似たようなことをしているというよりも役割分担ができ

	<p>ておりますので、委員おっしゃるとおり当然両者協力していかなければならない事業も多々あります。そのあたりのコミュニケーションというのは十分取れているかと私どもは認識しております。</p>
委員	<p>ありがとうございました。</p>
政策企画課長	<p>委員の皆様よろしかったでしょうか？ それでは以上をもちまして、第1回地方創生推進委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>

14 : 39 終了